

平成 28 年度

沼津市教育委員会
事務点検・評価報告書

沼津市教育委員会

(参考) 地方教育行政の組織及び運営に関する法律

(教育に関する事務の管理及び執行の状況の点検及び評価等)

第 26 条 教育委員会は、毎年、その権限に属する事務（前条第 1 項の規定により教育長に委任された事務その他教育長の権限に属する事務（同条第 4 項の規定により事務局職員等に委任された事務を含む。）を含む。）の管理及び執行の状況について点検及び評価を行い、その結果に関する報告書を作成し、これを議会に提出するとともに、公表しなければならない。

2 教育委員会は、前項の点検及び評価を行うに当たっては、教育に関し学識経験を有する者の知見の活用を図るものとする。

はじめに

沼津市教育委員会では、「これからの沼津の教育の方向、核となる考え方」であり、「明日の社会を担う『夢ある人』づくり」を目的とした「沼津市教育基本構想」を平成 21 年 1 月に策定いたしました。

また、その理念の具現化を図るため、「沼津市教育基本構想実施計画」を策定し、具体的な施策を着実に実施してまいりました。

さらに、近年の教育を取り巻く社会的な環境変化に應じるため、教育における課題や施策の検証を行うとともに、必要に応じて内容を見直した「沼津市教育基本構想（改訂版）」を平成 27 年 3 月に策定いたしました。

また、平成 28 年 3 月には、市長が教育基本構想を踏まえ、教育、学術及び文化の振興に関する総合的な施策の大綱としての「沼津市教育大綱」を策定いたしました。

平成 28 年 4 月には、「沼津市教育基本構想実施計画（H28～H32）」を策定し、基本構想（改訂版）や大綱に示された理念の具現化を図るために具体的な施策を実施しているところであります。

このたび、「地方教育行政の組織及び運営に関する法律」第 26 条の規定に基づき、平成 28 年度の沼津市教育委員会の事務について点検・評価を行いましたので報告いたします。

平成 29 年 8 月

沼津市教育委員会教育長 服部 裕美子

目 次

第1章 点検・評価の概要	1
1 趣旨	1
2 点検・評価の対象	1
3 点検・評価の方法	1
4 点検・評価の構成	2
第2章 沼津市教育委員会自己点検・評価の結果	3
1 教育委員会の活動	4
2 教育委員会が管理・執行する事務	5
3 教育委員会が管理・執行を教育長に委任する事務	6
第3章 沼津市教育委員会事務評価委員会の意見	11
1 教育委員会の活動について	11
2 教育委員会が管理・執行する事務について	11
3 教育委員会が管理・執行を教育長に委任する事務について	11
4 全体を通じた意見	12
第4章 総合評価	13

第1章 点検・評価の概要

1 趣旨

地方教育行政の組織及び運営に関する法律第26条の規定に基づき、教育委員会は、毎年その権限に属する事務の管理及び執行の状況について点検・評価を行い、その結果に関する報告書を作成し、議会に提出するとともに、公表することとされました。

そこで、沼津市教育委員会では、効果的な教育行政の推進に資するとともに、市民の皆様への説明責任を果たしていくために、教育委員会の権限に属する事務について点検・評価を行っています。

2 点検・評価の対象

点検・評価は、毎年、教育委員会の権限に属する事務を対象として行うものであり、本年度は、平成28年度の教育委員会の事務について点検・評価を行いました。

3 点検・評価の方法

- (1) 平成28年度の教育委員会の権限に属する事務の管理及び執行の状況を明らかにするとともに、課題等を分析するべく内部評価を行いました。
- (2) 点検・評価を行うに当たっては、法第26条第2項の規定に基づき、学識経験者の知見の活用を図るため、「沼津市教育委員会事務評価委員会」を設置し、委員からの意見を聴取しました。

沼津市教育委員会事務評価委員会の委員は、次のとおりです。

沼津市教育委員会事務評価委員会委員

(敬称略)

氏名	役職等
角替弘志	静岡大学・常葉学園大学 名誉教授
渡邊妙子	財団法人佐野美術館 館長
落合寿雄	沼津市教育関係団体 前事務局長

4 点検・評価の構成

点検・評価については、「沼津市教育委員会自己点検・評価の結果」と「沼津市教育委員会事務評価委員会の意見」及び「総合評価」により構成しています。

「沼津市教育委員会自己点検・評価の結果」は、「自己点検・評価シート」により次のように評価しています。

(1) 自己点検・評価シートの構成

自己点検・評価シートは、教育委員会の事務を「教育委員会の活動」、「教育委員会が管理・執行する事務」、「教育委員会が管理・執行を教育長に委任する事務」の三つの大項目に分類し構成しています。

ア 教育委員会の活動

教育委員会の会議の運営改善や公開、保護者や地域住民への情報発信の状況など、教育委員会自らの活動状況について6つの中項目に区分し、さらに11の小項目に細分化して、点検・評価を行いました。

イ 教育委員会が管理・執行する事務

教育委員会が管理・執行する事務は、教育委員会の権限に属する事務のうち、教育長に委任するものを除く教育委員会が自ら管理・執行する事務について7つの中項目に区分して、点検・評価を行いました。

ウ 教育委員会が管理・執行を教育長に委任する事務

教育委員会から教育長に委任された事務について、「沼津市教育基本構想」に基づき、家庭教育、幼児教育、学校教育、社会教育の4つの中項目に区分し、さらに各中項目において柱となる施策を15の小項目に細分化して、点検・評価を行いました。

(2) 各項目の点検・評価について

自己点検・評価シートの項目ごと「平成28年度事業内容に対する達成度」(左枠)について、目標、内容、成果と課題等から総合的に判断してABCの三段階評価を、「事業全体」(右枠)について、継続・完了か、改善・見直しが必要なのかを明記することとしました。

第2章 沼津市教育委員会自己点検・評価の結果

沼津市教育委員会
自己点検・評価シート

大項目1 評価

A	改善
---	----

評価基準

- 左枠 A ... 達成又はほぼ達成している
 B ... 概ね達成している
 C ... 遅れている
 右枠 継続 ... 現状の内容のまま継続していく事業
 改善 ... 改善しながら継続していく事業
 見直し... 抜本的見直しが必要な事業
 完了 ... 目的を達成し完了した事業

表記方法

該当する記号・文言を記入

大項目	中項目	小項目	点検・評価 (○・・・成果 ☆・・・改善点・課題)		
1 教育委員会の活動	(1)教育委員会の会議の運営改善	①教育委員会の会議の開催	A	継続	○ 定例会を月1回開催し、本市立小中学校管理規則の一部改正有形文化財の指定についての協議等を行った。また、必要に応じて協議会を、人事等に係る議案については臨時会を開催した。
		②教育委員会の会議の運営上の工夫	A	改善	○ 学校、教育委員会・市所管施設で教育委員会を開催した。 ○ 定例会を中学校で開催し、授業を視察するとともに、教員と懇談する機会を設けた。 ☆ 会議の内容によっては、発言の機会がない所管もあるため、定例会の参加者を検討する必要がある。
	(2)教育委員会と首長の連携	①総合教育会議の実施	B	改善	○ 総合教育会議を実施するにあたり、市長と率直な意見交換を行い、教育に対する共通理解を図ることができた。 ☆ 現市長が就任してからは会議を開催していないため、今後の総合教育会議の方向性を検討する必要がある。
		②教育委員会と首長との連携	A	継続	○ 教育施策について、市長部局との調整を行い、必要に応じて教育長から市長へ報告を行った。
		③教育大綱の策定	A	完了	○ 平成28年2月に前市長が策定した「沼津市教育大綱」を継続していくことを現市長と確認した。
	(3)教育委員会の会議の公開、保護者や地域住民への情報発信	①教育委員会の会議及び議事録の公開	A	継続	○ 人事案件などの非公開とされた会議を除き、会議を公開した。 ○ ホームページに、定例会の開催日程・場所などを掲載した。 ○ ホームページに、公開とされた会議の議事録要旨を掲載した。
		②教育委員会の広報・広聴活動の状況	A	改善	○ 「沼津市立小・中学校の適正規模・適正配置の基本方針(案)」に関する市民説明会の実施や報道機関への情報提供を実施した。 ○ 「教育委員会だより」による教育大綱や新規事業の紹介や、「戸田地区小中一貫校化推進委員会だより」の戸田地区全戸配布などを通じて、教育委員会の取組について情報を発信した。 ☆ 今後もホームページや紙媒体で情報発信に努める。
	(4)教育委員会と事務局との連携	①教育委員会と事務局との連携	A	継続	○ 事務局から教育委員に対し、必要に応じて電話やFAX、文書等で報告するなど、緊密な連携を図った。 ○ 早めの資料配布を心がけ、効率的な審議を図るよう努めた。
	(5)教育委員の自己研鑽	①研修会への参加	A	継続	○ 全国市町教育委員会連合会において、文部科学省大臣官房審議官の講話を聞くことをはじめ、各研修会に参加した。 ○ 「沼津市立小・中学校の適正規模・適正配置の基本方針の策定について」など、13のテーマで教育委員の勉強会を行った。
	(6)学校及び教育施設に対する支援・条件整備	①学校訪問	A	継続	○ 総合教育会議の開催に先立ち、第四小を視察し、英語教育の現状や特別な支援を要する子どもの様子を視察し、現状の理解を深めるとともに今後の方向性について検討した。 ○ 第五中を訪問し、中学生の様子や教員の指導の様子を視察するとともに、部活動に対する教員の考え方や多忙化について第五中教員と懇談した。
		②所管施設の訪問	A	継続	○ 様々な所管施設等を訪問し、定例会を実施した。 (市民文化センター、沼津御用邸記念公園東附属邸、少年自然の家、勤労青少年ホーム、市立図書館等)

大項目2 評価

A	継続
---	----

評価基準(事業内容に対する達成度)

左枠 A ... 達成又はほぼ達成している

B ... 概ね達成している

C ... 遅れている

右枠 継続 ... 現状の内容のまま継続していく事業

改善 ... 改善しながら継続していく事業

見直し... 抜本の見直しが必要な事業

完了 ... 目的を達成し完了した事業

表記方法

該当する記号・文言を記入

大項目	中項目	点 検 ・ 評 価 (○・・・成果 ☆・・・改善点・課題)		
2 教育委員会が 管理・執行する 事務	(1)学校教育及び社会教育に関する 一般方針を定めること	A	継続	○ 「沼津市立小・中学校の適正規模・適正配置の基本方針」策定 に向けて検討を重ねた。
	(2)人事の一般方針を定め及び懲戒を 行うこと	A	継続	○ 人事異動の方針について市長部局及び県教育委員会と連携し、 決定した。
	(3)県費負担教職員以外の教育委員会 及び教育委員会の所管に属する学校 その他の教育機関の職員の任免その 他の人事に関すること	A	継続	○ 人事異動については、十分な協議をし決定及び任命した。
	(4)県費負担教職員の懲戒及び県費 負担教育職員たる校長の任免 その他の進退について内申すること	A	継続	○ 県費負担教職員について県教育委員会に内申するなど、適切 に対処した。
	(5)教育委員会規則その他教育委員会 の定める規程の制定又は改廃を行う こと	A	継続	○ 富士山の日を休業日としないことに関する「沼津市立小中学校 管理規則の一部改正」など、教育委員会規則の一部改正を行った。
	(6)教育予算その他議会の議決を経る べき議案について意見を申し出ること	A	継続	○ 平成28年度一般会計補正予算、平成29年度一般会計予算など 市議会の議決を経るべき議案について協議した。
	(7)社会教育委員を委嘱すること	A	継続	○ 昨年度に引き続き社会教育委員を委嘱した。

大項目3 評価

A	継続
---	----

評価基準(事業内容に対する達成度)

- 左枠 A ... 達成又はほぼ達成している
 B ... 概ね達成している
 C ... 遅れている
- 右枠 継続 ... 現状の内容のまま継続していく事業
 改善 ... 改善しながら継続していく事業
 見直し... 抜本的見直しが必要な事業
 完了 ... 目的を達成し完了した事業

表記方法

大項目	中項目	小項目	点 検 ・ 評 価 (○…成果 ☆…改善点・課題)		
3 教育委員会が管理・執行を教育長に委任する事務	(1) 家庭教育	①家庭教育を充実させる	A	改善	<p>○自信がもてる子育て講座は、開催回数を6回から10回に増やし、講座会場に託児室を設け受講しやすい環境づくりに努めたことで、前年度より受講生が増加した。</p> <p>○家庭教育学級の活動を支援することにより、子どもを持つ保護者が子育てに必要な知識や情報を得て、子育てに対する意欲を向上させることに寄与した。</p> <p>○絵本の見開き展示や書架整理を行い、選びやすく使いやすい書架になったとの評価をいただいた。</p> <p>○協議会委員から、地区センター図書室が活性化してきたとのご意見をいただいた。</p> <p>○沼津市PTA連絡協議会と連携し、市内全小5、中2を対象に「SNSに関するアンケート」を行い、実態を把握し傾向や課題について分析を行った。</p> <p>☆家庭教育学級については、実施内容が家庭教育から離れ、レクリエーション的な内容になってしまう事例が見られたため、運営費支援については28年度限りとし、29年度については、家庭教育に関する学習会へ講師を派遣する制度に変更した。</p> <p>☆家庭教育に関わる関係他課と、これまで以上に情報交換を図り、連携を進めていく。</p>
		②家庭教育を支援する	A	継続	<p>○市の事業に対する協力を得るなど、沼津市PTA連絡協議会との連携を図ることができた。</p> <p>☆家庭教育に関わる関係他課と、これまで以上に情報交換を図り、連携を進めていく。</p>
	(2) 幼児教育	①幼児教育を充実させる	A	継続	<p>○国際感覚を豊かにする教育を推進するため、乳幼児期から英語に親しむきっかけづくりの場として、0～3歳児とその保護者を対象とした英語教室を開催した。定員を上回る応募があり、実施後のアンケートでは、全体の8割以上が「英語を楽しむことができた」と回答した。</p> <p>○各園において、防災・防犯計画書を作り、教職員及び園児の具体的な対応について定めることができた。</p> <p>☆0～3歳児と一緒に参加するには年齢幅が広すぎたため、年齢区分の見直しが必要である。</p>
		②幼児教育をつなぐ	A	改善	<p>○小学校入学前の早期からの就学相談、就学指導を行うことができた。</p> <p>○幼保小連携協議会において、各小学校が授業参観を企画して幼保へ案内を出す、幼保の教員が可能な範囲で小学校の入学説明会に参加する、各幼稚園が小学校の教員が幼稚園へ向く研修を企画する、など様々な意見が出され、今後の連携の重要性を確認できた。</p> <p>☆指導件数の増加に対応するため、年間7回の就学指導委員会に加え、教育相談会を別に1回開催し、より丁寧で適切な支援を行いたい。</p> <p>☆幼保小連携協議会の回数や内容、具体的な施策への反映等について、今後も検討が必要である。</p>

大項目	中項目	小項目	点検・評価 (○…成果 ☆…改善点・課題)		
3	(3) 学校教育	①学校の自主・自立を支援する	A	改善	<p>○各学校が独自の取組を企画・立案する「がんばる学校応援事業」では、小中学校合計で115の事業が企画され、児童生徒にとって有意義な活動が行われた。</p> <p>○教職員研修センターが実施する経験年数2年から5日目までの若手教員及び臨時的任用教職員への年2回の訪問指導により、研修対象者の資質向上につながった。 また、訪問時に悩みごとや困りごとに対する相談に乗ることができたことから、近隣市町に比べ特別休暇取得者の割合は非常に低いことにつながったと考えられる。</p> <p>○学校評議員と学校評価の関係評価者とをリンクさせることにより、開かれた学校運営に向けた組織が確立されつつある。</p> <p>○校務支援ソフトの活用により、各種様式が標準化されたため、教員の多忙化が改善されつつある。</p> <p>☆「がんばる学校応援事業」は、地域の特色を生かした事業とするために、「地域資源・地域人材を活用した事業」の実施率を上げていく。平成28年度で本事業は終了し、新規事業へ移行していく。</p> <p>☆指導要録の電算化を実施し、さらなる多忙化解消を図る。</p>
		②独自の取組を推進する	A	継続	<p>○新言語科の周知研修と研究指定校の授業公開により、市内教員の理解が深まった。また、新言語科の副読本作成が完了した。</p> <p>○0～3歳児とその保護者を対象とした英語教室「イングリッシュデビュー事業」を実施した。参加した保護者の8割以上が英語を楽しむことができたと答えていた。</p> <p>○英検3級を受験する中学3年生に、検定料の1/2を補助する「みんなで受けよう！英検事業」を実施したことで、英検3級取得率が上がった。</p> <p>○小学5年生から中学2年生を対象に、年2回、終日オールイングリッシュで様々な活動を行う「イングリッシュアドベンチャー事業」を実施した。参加した子どもの約7割がアクティビティが「とても楽しかった」と答えるとともに、ALTに英語が伝わった喜びや充実感を口にしており、コミュニケーション能力向上に対する意欲を喚起できた。</p> <p>☆現市長就任後、教育委員との懇談、学校現場の視察等段階的に本市の教育の現状を把握しつつ、有識者と個別に検討する中で、28年度の「夢ある人づくり塾」の開催は見送ったため、次年度以降の開催方法や内容について、今後、検討していく。</p> <p>☆学校配置の適正化については、28年度に戸田地区小中一貫校推進委員会を立ち上げ、地域住民との丁寧な話し合いを進めてきたので、今後も継続していく。29年度には長井崎中学校区において推進委員会を立ち上げる。</p>
		③確かな学力を育成する	A	改善	<p>○「確かな学力育成事業」の放課後学習に参加した児童のアンケートからは、「支援員の方に教わって、よく分かるようになった。」「丁寧に教えてくれてよかった。」など肯定的な意見が多く見られた。</p> <p>○新言語科の周知研修と研究指定校の授業公開により、市内教員の理解が深まった。また、新言語科の副読本作成が完了した。</p> <p>○科学研究奨励賞において、継続した質の高い研究が増えてきている。奨励賞をきっかけに、多くの児童生徒が継続して科学研究に取り組み、県の科学研究賞受賞につながっている。</p> <p>☆新しくなった副読本を活用し、新言語科学習指導要領の理解と授業改善をなお一層進める必要がある。</p> <p>☆理科教育設備の整備は今後も推進していく。</p> <p>☆学校の要望に応じて学校司書の配置時数を増やしたい。(学校司書は、29年度から「チーム学校」実現事業に移行)</p>

大項目	中項目	小項目	点検・評価 (○…成果 ☆…改善点・課題)		
3 教育委員会が管理・執行を教育長に委任する事務	(3) 学校教育	④豊かな心と健やかな体をはぐくむ	A	継続	<p>○県大会以上の参加者にとって遠征費の補助は、部活動推進の助けとなった。</p> <p>○学校給食では、衛生面の大きな問題はなかった。食中毒などの事故発生もなく、安全に給食を実施できた。</p> <p>○学校医から、食物アレルギー対応指針策定に当たって指導助言をいただいた。</p>
		⑤一人一人の子どもを大切に	A	継続	<p>○巡回相談員を派遣することにより、心理の専門家、特別支援の専門家から児童生徒のとらえ方の指導助言を受け、個々の児童生徒への適切なかわり方や個別支援計画の作成などに役立った。</p> <p>○通級指導教室に支援員を配置することにより、担任一人では気持ちが落ち着かなくなった児童に対し、複数で対応することができた。</p> <p>○いきいき学校生活応援支援員の小学校全校配置により、複雑な家庭環境を持つ児童や、友人関係を上手に作れない児童などが他の児童と共にいきいきと学校生活を送れている。</p> <p>○中学校18校の学校規模や不登校生徒の割合を考え、学校ごと時間数を決め、相談活動を行う支援員を配置した。相談員による家庭訪問、相談室での面接などを通じて不登校の生徒が少しずつ登校できるようになるなどの成果が見られた。</p> <p>○電話相談、面接相談、相談指導学級での体験活動の提供等により、児童生徒や保護者への支援、学校復帰と社会的自立へ向けての支援ができた。</p> <p>○学校、生涯学習課、沼津市青少年教育センター、沼津市子育て支援課、スクールカウンセラー、沼津警察署、人権擁護委員などが参加し、沼津市のいじめの現状と対策について協議した。</p> <p>○外部機関の方から広く意見をいただき、会議内容を学校に周知することで、各学校のいじめ対策に生かすことができるようにした。</p> <p>☆今後も多くの意見を参考にして、より効果のないいじめ対策を探ることが必要である。</p>
		⑥子どもの命を守る	A	継続	<p>○避難訓練・不審者対応訓練等を実施し、防犯意識を高め、迅速かつ安全に避難することができた。</p> <p>○通学路安全推進アドバイザーから、通学路の危険箇所の安全対策及び児童生徒への安全指導について専門的見地からの助言を受け、対策案の立案することができた。</p> <p>○沼津市PTA連絡協議会と連携し、本市全小5と中2に「SNSに関するアンケート」を実施し、実態を把握した。また、小中学生を取り巻くSNSへの対応について協議し、連携を図った。各校の学級活動等を通じ、情報端末へのかかわり方や安全な使用方法について児童生徒が考える場を設けた。</p> <p>○複数の学校で、「スマホ・ケータイ安全教室」を実施した。</p> <p>○市内全小中学校において、小学校5、6年生と中学校全学年を対象とした薬物乱用防止講座及び薬学講座を行い、児童生徒の意識を高めた。</p> <p>☆緊急性を要する施設改修については、児童生徒の安全性を最優先に考慮し、学校現場との連携を密にしつつ、より一層機動的に対応していく。</p> <p>なお、校舎等の計画的な施設改修については、長寿命化改修基本整備計画を策定して統一的な整備方針や整備水準を定めるとともに、総合的かつ計画的な管理を推進するための公共施設マネジメント計画にかかる個別施設計画の策定に向けて準備をしていく。</p>
⑦社会の変化に対応する	A	継続	<p>○情報機器活用による授業づくりの工夫がみられ、ホームページの公開による情報発信も行われている。</p> <p>○平成30年度末までにトイレの洋式化の割合を50%以上にするという目標に向け、平成28年度分の計画を予定どおり実施することができた。</p> <p>○市立沼津高等学校のプール改修工事が完了した。</p> <p>☆学校の課題及び地域の実情を十分に把握した上、施設整備の基準を設け計画的に対応していく。</p>		

大項目	中項目	小項目	点検・評価 (○…成果 ☆…改善点・課題)		
3	(4) 社会教育	①自主的な学習を支援する	A	継続	<p>○市民大学では、「人生を豊かにする」をサブテーマに様々な分野から一流の講師を招いた。会場を千本プラザからプラサヴェルデに移し定員を増やしたことで、多くの受講者が受講できた。</p> <p>○さんさんだよりについて、市民の目に留まりやすいようレイアウトやデザインを工夫した結果、市民から好評を得た。</p> <p>○市民の学習成果の発表の場として、さんさん学習フェスティバルを4部門に分け開催した。参加者が昨年度より増加し、多くの市民の学習意欲の向上につながった。</p> <p>○従来の図書館HPに加え、フェイスブックを開設し、新たな広報機会を提供した。</p> <p>○各地区センターを巡回し、書架整理、レイアウト変更及び配架図書の見直しを行ったことで、市民から地区センター図書室が活性化したとのご意見をいただいた。</p> <p>○「ビブリオバトル中高生大会」において、中高生たちに本と人との出会いを楽しむ機会を提供した。</p> <p>○子どもの読書活動推進のための「絵本講演会」、男性職員による読み聞かせ(読みメン)、英語のおはなし会を実施した。</p> <p>☆さんさん学習フェスティバルや高齢者学級の参加者が高齢化しており、事業の運営上、健康状態など安全面へのさらなる配慮が必要である。</p>
		②青少年の社会性をはぐくむ	A	継続	<p>○沼津市青少年育成団体連絡協議会による「子どもの遊び王国in沼津」を実施したことにより、子どもと大人が触れ合う場となり、多くの「遊び」を体験することで幅広い世代の交流が図れた。</p> <p>○「わたしの主張大会」では、19中学校の代表が日頃考えていることを発表し、2人が県大会に進み、うち1人が全国大会に進んだ。</p> <p>○「高校生しゃべり場inぬまづ」の会場を市民文化センターからプラサヴェルデで開催するなどの見直しを図り、傍聴者が増加した。</p> <p>○地域分散方式による成人式式典の企画・運営には、地域住民や団体が数多く携り、いずれの地域も特色に満ちた新成人を祝うにふさわしい行事を開催することができた。</p> <p>○「新成人議会」では、質問の内容及び各新成人議員の一言発言から、参加者が故郷沼津市及び市政についてあらためて関心等を寄せる機会となった。</p> <p>○ゆめとびら舟山については、市HP、パンフレットの更新などにより、利用者が増加した。</p> <p>☆東部青少年体験活動事業は、実行委員会において、事業結果の検証、事業目的や実施の方法、内容について、見直しおよび協議をした結果、平成28年度をもって事業を終了することとなった。</p>

大項目	中項目	小項目	点検・評価 (○…成果 ☆…改善点・課題)		
3 教育委員会が管理・執行を教育長に委任する事務	(4) 社会教育	③文化を継承し、発信する	A	継続	<p>○平成27年度まで「地域ふれあいコンサート」として、本格的な音楽コンサートを各地区センターなどで開催し、多くの方々から好評を得てきた。そのノウハウを生かして、「まちなか」でも気軽に本格的な生演奏を身近で楽しめる機会を提供することができた。</p> <p>○芹沢光治良生誕120周年記念のDVDを作成し各地区で上映会を開催することで、地元出身の作家を身近に感じられるよう努めた。</p> <p>○各文化施設が常設展に加え様々な企画展や催事を実施し、来館者数の増加につながった館があった。</p> <p>○長浜城跡については、環境整備(危険木等伐採剪定、除草)を実施するとともに、長浜城北条水軍まつりへ参画し、前年の参加者を上回る多数の参加者が得られ、広く市内外への情報発信が図られた。</p> <p>○旧静浦西小の一部が改修され、現文化財センター等の移転計画の見通しができた。</p> <p>☆地域の歴史や偉人の業績を学び、子どもたちが「住んでいるところ」を愛する心をはぐくむことができるよう、博物館・文学館の活用、史跡めぐりや体験学習を学校教育に取り入れるなど小中学校との連携が求められる。</p>
		④市民みんなのスポーツを展開する	A	改善	<p>○市民一人ひとりが安全で快適に運動に親しみ、健康で楽しく充実した生活が送れる良い機会を提供した。また、参加率の低い教室については、内容等について見直しを行った。</p> <p>○各種スポーツ施設は、安全かつ快適な利用者受入施設として適切な維持管理を行うとともに、利便性向上のための改修、修繕を実施し、市民のみなさんに身近で気軽に利用できるスポーツ、レクリエーションの場として広く市民に施設供用を行った。</p> <p>○新市民体育館建設予定地の香陵運動場の代替機能として、今沢中学校運動場の整備を実施した。</p> <p>○老朽化が進んでいた戸田B&G海洋センタープール棟の改修や市民体育館の床修繕等を行い、快適な利用環境の保持に努めた。</p> <p>○小学生にソフトボール投げの指導を実施するための講師を紹介・派遣した。</p> <p>☆スポーツリーダーのための研修会で得た成果を発揮する場が少ないため、リーダーとして活躍できる場の提供が必要である。</p> <p>☆老朽化した施設の更新を行うにあたっては、利用者に与える影響を最小限にするよう、配慮しながら進めていく必要がある。</p>

第3章 沼津市教育委員会事務評価委員会の意見

- 主に家庭教育に関わることについて
 - 点検評価シートからは家庭教育は充実されつつあることが伝わってきた。今後は、「沼津市民は家庭教育がよくできている」と市民から評価されることが大切である。

- 主に学校教育に関わることについて
 - 「がんばる学校応援事業」が28年度で完了となったが、次の事業「チーム学校実現事業」なども含め、今後の課題が明確に示されている点が良い。
 - 「小中一貫校にいても、中学校から別の学校へ行く」、「市立高校中等部にいても、中学校が終わった段階で他の高校へいく」などの進路の変更といった、その子に合った指導をするということが大切である。市の考え方としても明確にしておく必要がある。
 - 部活の外部指導者については、スポーツリーダーと絡めて活用を図ることが必要である。
 - 教育委員が第五中を訪問し、教員と懇談をしたとのことだが、教員の多忙化が大きな問題となっているため、多忙化解消に向けた取組を推進してもらいたい。
 - 多忙化解消に向けては、校務支援ソフトの活用により改善されつつあるという記載もあるが、実際に何時間くらい減ったかなど、教員の具体的な勤務実態から考えていく必要がある。

- 主に社会教育に関わることについて
 - 保護者や学校関係者をはじめ様々な方からは、市民大学の講師が素晴らしいという声や、PTA組織と生涯学習課が協力して子どもたちのために良い事業をたくさん実施しているという声、図書館が学校と連携しながら様々な取組をしていて大変良いという声がある。
 - 井上靖をはじめ沼津の文化は素晴らしいので、中学生でも相当良い学びができる。今後、学校とタイアップしながら新しい取組をしてもらいたい。
 - 小学生用の博物館や美術館のフリーパス（ミュージアムパスポート）の使用を奨励し、沼津の博物館、美術館、文学館などももっと活かせると良い。

- その他、全体に関わることについて
 - 関係各課において、きめ細かく大変精力的に事業に取り組んでいる。
 - 全体的に他市と比べても素晴らしい取組が多い。そのような取組をもっとPRする必要がある。
 - 学校施設、文化施設、体育施設等の老朽化が気になるが、様々なプランの中で老朽化への対応について触れている点は素晴らしい。
 - 「子どもの命を守る」観点を重視し、新たな視点から評価を加えた点は素晴らしいが、その中で、学校施設の老朽化対策は急を要する。教育委員会として、その必要性を、市当局にもアピールしていく必要がある。
 - 評価について、Aが多く、標準となっている感じがするため、Aの中でも特に良いものはSをつけるということについて検討していくことも考えられる。
 - 事務点検評価の報告書を、今後はこうしたい、このようにしてもらいたい、というような教育委員会の熱意が伝わる報告書にすると良い。

第4章 総合評価（沼津市教育委員会事務評価委員会による総合評価）

平成 28 年度は「沼津市教育基本構想実施計画（H28～H32）」の初年度であり、これまでの実施計画を更新し、「沼津市教育基本構想（改訂版）」（平成 27 年 3 月）及び「沼津市教育大綱」（平成 28 年 3 月）に示された理念の具体化を図るため、積極的に施策の実施に取り組んできたことが認められます。主な事業をはじめ各事業について PDCA サイクルにより進行状況の検証が概ね適切になされ、各事業とも弾力的に実施され、いくつかの課題を残しつつも、目標達成に向けてほぼ期待された成果を達成することができたことと判断することができます。

さらに、教育を取り巻く社会的環境が大きく変わる中で、学校等の教育諸施設の老朽化対策を含め、教育環境の整備・充実が強く求められている状況において、「沼津市立小・中学校の適正規模・適正配置の基本方針」の検討が意欲的・積極的に進められ、その成案を得ることができたこと（平成 29 年 5 月）、それらを踏まえて「戸田地区小中一貫校化推進委員会」等が組織されるなど、その実施に向けての進展が図られてきたことは十分に評価されるべきことであると言えます。

現市長が就任してから総合教育会議は開かれておりませんが、前市長が策定した「沼津市教育大綱」の継続は現市長によっても確認され、市長部局との連携に関して、主として家庭教育・幼児教育、社会教育・生涯学習の分野において、市長部局の関連する部局（こども家庭課、子育て支援課、健康づくり課、地域自治課等）と緊密な連携協力の下に事業が展開され、成果を上げていることが認められます。

また、学校教育の分野においては、平成 13 年度から始まった「がんばる学校応援事業」は 28 年度をもって完了しましたが、地域資源・地域人材活用事業等とあいまって、各学校が独自に魅力ある学校づくりに積極的に取り組み、小中校合わせて百を超える事業が企画・実施され、地域に根ざした児童生徒の教育に大きな成果を挙げました。これらの成果を今後に生かすべく、すでに「チーム学校実現事業」等の検討が進められており、今後のより充実した各学校独自の事業が展開されることが期待されます。

本市においてはこれまでに中高一貫教育（市立沼津高校・中等部）、小中一貫教育（静浦小中一貫学校）に取り組んできており、教育課程の編成、生徒指導等について一定の成果を挙げてきましたが、これからも児童生徒の進路の指導を含め、一層その充実を図ることが求められます。言語科の取組も順調にその成果を挙げてきていますが、「イングリッシュデビュー事業」「みんなで受けよう！英検事業」「イングリッシュアドベンチャー事業」等の国際化に対応する一連の事業も含め、これまでの実績をよく吟味し、これからも十分な教育的配慮の下に効果的に取り組んでいくことが望まれます。また、市民のスポーツ活動、文化活動の分野においても意欲的な取組がなされましたが、施設設備等の一層の整備充実が求められています。

今後、地域を誇り大切に教育を進めるために、今回の厳密に行われた自己点検評価を糧に、沼津独自の地域に根付いた教育に一層意欲的に取り組むことが強く期待されます。